

平成27年度 愛媛県議会 地域の声を聴く会

県議会では、議会基本条例の趣旨にのっとり、広報広聴活動の充実を図り、県民に開かれた議会活動を推進するため、平成27年度から「愛媛県議会 地域の声を聴く会」を実施し、県民に議会（委員会）の取組みを紹介し、議会（委員会）活動に対する県民の理解促進を図るとともに、地域で県民の生の声を聴き、地域の現状と課題等を把握することとしております。

今年度につきましては下記のとおり実施し、地域代表者の方からは、多くの貴重な意見を頂きました。

開催日	平成27年6月1日（月曜日）
開催場所	西条市スポーツコミュニティセンター会議室
テーマ	えひめ国体開催に向けた地域の取組みについて
参加者	<p>地域代表者</p> <p>愛媛県山岳連盟会長 峯本 典寛 西条市連合婦人会会長 徳永 米子 西条市老人クラブ連合会会長 服部 宗市 西条市体育協会会長 田中 稲造 西条青年会議所理事長 大成 信輔 新居浜市連合自治会会長 日野 幸彦 新居浜市体育協会・新居浜市ウェイトリフティング協会会長 真鍋 和人 新居浜セーリング協会会長 井上 幹雄 新居浜サッカー協会会長 加藤 學</p> <p>総務企画国体委員会委員 経済企業委員会委員（オブザーバーとして参加）</p>
質疑内容	<p>地域代表者からの声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山岳協会としても国体をPRして成功に導き、地域の人と喜びを分かち合いたい。大会での使用施設、石鎚クライミングパークもできたので、選手強化に努めたい。国体には監督、選手、その家族が訪れるため地元の協力が必要であり、その協力がおもてな

しになる。また、石鎚クライミングパークの場所がわかるよう国道に案内看板を設置してほしい。

- ・ 婦人会ではおもてなしの心でお手伝いし、大会を盛り上げたい。芋たきなどの郷土料理、花植え、掃除、石鎚の魔除けのお猿さんを作って配ることなどを考えている。地域の会員が約 6,500 人いるので各地域でお手伝いできる。
- ・ 老人会では具体的なことはまだ決めていないが、イベントに参加することに意義があると考えている。
- ・ 西条市では9年前から次世代の育成に力を入れており、選手が育っている。国体開催に合わせ、ハンドボール、山岳競技にも地元の種目協会を立ち上げた。障害者フライングディスクについては昨年大会を開き、西条市からも優秀な選手が現れた。
- ・ 青年会議所では、行動力と若さを活かし、会場づくり、おもてなしの部分、駐車場などの面で依頼があれば十分に協力ができる。
- ・ 開催地として何をすれば喜ばれるか、良い印象を残してもらえかが市民に求められている。その意味でおもてなしの心を高めていくことが大事である。自治会ではおもてなしの心で花いっぱい運動とあいさつ運動に協力している。
- ・ 長崎国体のビデオを見ると地域の方の笑顔が印象的であった。ビデオを見てもらって選手を必死で応援する美しい姿を実感してもらいたい。市民には国体開催が浸透しておらず、新居浜市で開催される競技を知らない人が多い。
ウェイトリフティング種目では有力選手もおり、希望をもって選手強化に努めている。
- ・ セーリング協会は約5年前にヨット協会から名称変更した。競技人口は小中が10名、高校が10名。一般は1種目5～6人だが全国レベルの選手がいる。大会に向けて、サポート艇の確保や会場設営に課題がある。
- ・ サッカー施設面では昨年グリーンフィールド新居浜に東西にそれぞれ屋根付きで500名が観戦できる観覧席ができ好評である。国領川河川敷の2面の練習場で未整備の1面に芝を植えることになってい

る。

質疑応答

Q 大会をどのような順序で盛り上げていくかが求められる中、地域には情報が入っているのか。また、全国障害者スポーツ大会についてはどうか。

A 選手や応援の人をどのように迎えるか市と協議している。盛り上げにはやはりおもてなしをどうするかということで、体育協会だけではなく、婦人会、老人会、障害者の方などがタイアップして盛り上げる必要がある。種目協会を立ち上げた山岳競技に子供たちに参加してもらおうなど少しずつでも盛り上げたい。障害者スポーツ大会のフライングディスクについては地元で選手が育っており、盛り上がり期待できる。

A 盛り上げるためには国体に関心を持ってもらうことが大事である。国体紹介ビデオを見ると裏方のボランティアの様子が見られるので一般の人にもわかりやすい。また、ビデオでは子供が真剣に応援しているの、その雰囲気をはいかに伝えるかが問題である。

A 国体実行委員会の各部会で協議しており、年内にも市民に方針が示せると思う。今は盛り上がっていないが、市民は国体があることは知っているの、最終的には市民が一体となり、盛り上がると思う。

市長も力を入れており、来年度中にはおもてなし部分、競技部分も整うのではないかと、心配しながらも安心感はある。

Q 国体を盛り上げるために行政と地域、種目協会の連携はどうなっているのか。

A 競技種目、開催場所等を知ってもらえれば当日は盛り上がるのではないか。子供が来るようにすれば親、兄弟も集まり、口コミで広がる。新聞、ケーブルテレビ等マスコミがマイナー競技も大きく取り上げたり、特集を組むとよい。

A 国体実行委員会が本大会までのスケジュール調整を行っており、関係団体にも資料は配られている。

関係団体には国体に向けての協力を周知していく。

総括（黒川総務企画国体委員長）

いろいろ意見を頂いた中で、いかに優秀な選手を地元で雇用できるかという、選手、指導者の育成に関する雇用の問題、もう1点は、地元を盛り上げるため各地域がどうすればよいのかという問題があることがわかった。

国体紹介ビデオを見ることにより、裏方のボランティアの様子が変わり、一般の人にも興味が湧くだろうし、体育協会や各種目団体においても、各市の情報交換をすることによりいろいろなことが見えてくるのではないかと

地域の代表者の皆様には今後も県・市の体育協会、各種目協会間での情報交換をお願いしたい。

県議会としては、えひめ国体成功のため、本日の会議の内容を今後の委員会の中でも活かすとともに、県や各種団体とも話しあって是非とも成功に導きたい。

会議の様子

